

III. 熱帯野菜・果樹のウイルス病

3. 野 菜

藤 澤 一 郎

農業研究センター病害虫防除部ウイルス病診断研究室

Virus Diseases of Vegetables and Fruit Trees in Tropical Countries

3. Virus diseases of vegetables

Ichiro FUJISAWA

National Agriculture Research Center

Kannondai, Tsukuba 305, Japan

トウガラシの病株から分離される病原ウイルスのうち、CVMV, TSWV, CMV, TLCV はいずれも虫媒伝染性のウイルスである。そこで、アブラムシ、スリップスに対して飛来防止効果のある各種の農業資材を用いてウイルス病の耕種的防除効果を検討した。

- (1) 育苗時の処理：トウガラシの育苗を白色寒冷紗のトンネル被覆下で行った場合（寒冷紗育苗）と露地の無被覆下で行った場合（露地育苗）を比較した。また、定植直前に各処理苗についてウイルス病の発生と媒介昆虫（アブラムシ、アザミウマ、コナジラミ）の寄生状況を比較調査した。
- (2) 定植後の処理：圃場における処理区はシルバーテープ展張区、シルバーマルチ区、トウモロコシ間作

区、ムシコンマルチとシルバーテープ展張の併用区、紫外線除去フィルム被覆区、殺虫剤散布区、寒冷紗被覆区、シルバーマルチ+寒冷紗囲い+紫外線除去フィルム被覆の複合区及び無処理（対照）区の計9処理区で、2反復を行った。

- (3) その結果、育苗を寒冷紗のトンネル被覆で行うことによって無病苗が生産でき、これらの苗を定植した場合露地育成苗に比べ圃場での発病は遅延し、被害は軽減した。また、圃場においては寒冷紗被覆あるいは紫外線除去フィルム被覆処理が著しい防除効果を上げたが、経済性の面からシルバーテープの展張、ムシコンマルチとシルバーテープ展張の併用、あるいは殺虫剤散布が最適な防除法と考えられる。

各種農業資材によるトウガラシウイルス病防除試験 (12月13日調査)

処	理	育苗条件	症状別株数				発病株数	総株数	発病株率 (%)	
			LC	TN	LC・M	M				
対		照	露地	6	3	5	3	17	25	68.0
			寒冷紗	6	2	3	3	15	27	55.6
シルバーテープ		プ	露地	5	1	0	2	8	26	30.1
			寒冷紗	5	1	1	0	7	25	28.0
シルバーマルチ		チ	露地	2	0	6	4	12	21	57.1
			寒冷紗	1	0	1	2	4	22	18.2
トウモロコシ間作		作	露地	1	0	4	12	17	27	63.0
			寒冷紗	6	0	3	4	13	27	48.1
ムシコンマルチ+シルバーテープ		プ	露地	1	0	3	5	9	25	36.0
			寒冷紗	1	0	2	4	7	23	30.4
紫外線除去フィルム被覆		被覆	露地	0	0	0	2	2	24	8.3
			寒冷紗	0	0	1	1	2	25	8.0
殺虫剤散布		布	露地	0	1	9	8	18	24	75.0
			寒冷紗	3	0	0	8	11	26	42.3
寒冷紗被覆		被覆	露地	0	1	1	11	13	28	46.4
			寒冷紗	0	0	0	1	1	28	3.6
紫外線除去フィルム+寒冷紗+シルバーマルチ		被覆	露地	0	0	0	0	0	17	0
			寒冷紗	0	0	0	1	1	20	5.0

注) LC：巻葉，TN：頂葉枯死，M：モザイク

●熱帯農研集報 No.60 (1988) p. 115-120を参照して下さい。